

教科	理科	学年	第6学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ものが燃えるしくみ	9	・空気の変化に着目して、物の燃え方を多面的に見ながら、燃焼の仕組みを追究する中で、より妥当な考えをつくりだし、表現することを通して、植物体が燃えるときには、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができることを理解すること。 ・問題解決の見通しをもって、燃焼の仕組みについて追究し、より妥当な考えをつくりだし、表現しようとするとともに、燃焼の仕組みについて理解したことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。	・植物体が燃えるときには、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができることを理解している。 ・植物体が燃える前と燃えた後の空気の性質や植物体の変化を多面的に調べることができる。	燃焼の仕組みを多面的に調べる活動を通して、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。	・問題解決の見通しをもって、燃焼の仕組みについて追究し、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決しようとしている。 ・燃焼の仕組みについて理解したことを日常生活などに生かそうとしている。

ヒトや動物の体	10	・体のつくりと呼吸、消化、排出及び循環の働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に見ながら、人や他の動物の体のつくりと働きを追究する中で、より妥当な考えをつくりだし、表現することを通して、人や他の動物の体のつくりと働きを理解すること。 ・問題解決の見通しをもって、人や他の動物の体のつくりと働きについて追究し、より妥当な考えをつくりだし、表現しようとするとともに、人や他の動物について理解したことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。	・体内に酸素が取り入れられ、体外に二酸化炭素などが出されていることを理解している。 ・吸気と呼気の成分などを基に、肺を通して血液中に酸素を取り入れ、血液中の二酸化炭素などを体外に排出する働きを多面的に調べることができる。 ・食べ物、口、食道、胃、腸などを通る間に消化、吸収され、吸収されなかった物は排出されることを理解している。 ・食べた物が変化し体内に取り入れられることを多面的に調べることができる。 ・血液は、心臓の働きで体内を巡り、養分、酸素及び二酸化炭素などを運んでいることを理解している。 ・心臓の動きと血液の流れを関係付けて、血液に入った養分や酸素、肺から取り入れられた酸素の行方などを多面的に調べることができる。 ・体内には、生命維持活動を維持するための様々な臓器があることを理解している。 ・呼吸、消化、吸収、排出などと臓器との関係を多面的に調べること	・呼吸の働きを多面的に調べる活動を通して、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。 ・消化や排出の働きを多面的に調べる活動を通して、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。 ・血液の働きを多面的に調べる活動を通して、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。 - 個々の臓器と生命を維持する働きとの関係を多面的に調べる活動を通して、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。	・問題解決の見通しをもって、人や他の動物の体のつくりと働きを追究し、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決しようとしている。 ・人や他の動物について理解したことを日常生活などに生かそうとしている。 ・生命を維持する働きを多面的に調べる活動を通して、生命を尊重しようとしている。
---------	----	--	--	---	---

令和4年度 評価規準

学校名:江戸川区立南葛西第三小学校

植物のつくりとはたらき	8	・植物の体のつくりと体内の水などの行方や葉で養分をつくる働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に見ながら、植物の体のつくりと働きを追究する中で、より妥当な考えをつくりだし、表現することを通して、植物の体のつくりと働きを理解すること。 ・問題解決の見通しをもって、植物の体のつくりと働きについて追究し、より妥当な考えをつくりだし、表現しようとするとともに、植物について理解したことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。	・植物の葉に日光が当たるとでんぷんができることを理解している。 ・葉の中のでんぷんの存在を多面的に調べることができる。 ・根、茎及び葉には、水の通り道があり、根から吸い上げられた水は主に葉から蒸散により排出されることを理解している。 ・植物の体内での水の通り道を多面的に調べることができる。	日光と葉の中のでんぷんのでき方を多面的に調べる活動を通して、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。 植物の体内での水の流れ方を多面的に調べる活動を通して、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。	・問題解決の見通しをもって、植物の体のつくりと働きを追究し、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決しようとしている。 ・植物について理解したことを日常生活などに生かそうとしている。 ・生命を維持する働きを多面的に調べる活動を通して、生命を尊重しようとしている。
生物どうしのつながり	7	・生物と水、空気及び食べ物との関わりに着目して、それらを多面的に見ながら、生物と環境を追究する中で、より妥当な考えをつくりだし、表現することを通して、生物と持続可能な環境との関わりを理解すること。 ・問題解決の見通しをもって、生物と環境について追究し、より妥当な考えをつくりだし、表現しようとするとともに、生物と持続可能な環境について理解したことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。	・生物は、水及び空気を通して周囲の環境と関わって生きていることを理解している。 ・生物と水及び空気との関わりを多面的に調べることができる。 ・生物の間には、食う食われるという関係があることを理解している。 ・食べ物を通した生物同士の関わりを多面的に調べることができる。	生物と周囲の環境との関わりを多面的に調べる活動を通して、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。 生物同士の関わりを多面的に調べる活動を通して、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。	・問題解決の見通しをもって、生物と環境を追究し、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決しようとしている。 ・生物と環境について理解したことを日常生活などに生かそうとしている。 ・生物と水、空気及び食べ物との関わりを多面的に調べる活動を通して、生命を尊重しようとしている。

令和4年度 評価規準

学校名:江戸川区立南葛西第三小学校

水よう液の性質	14	・水に溶けている物に着目して、水溶液の性質や働きの違いを多面的に見ながら、水溶液の性質や働きを追究する中で、より妥当な考えをつくりだし、表現することを通して、水溶液の性質や働きを理解すること。 ・問題解決の見通しをもって、水溶液の性質や働きについて追究し、より妥当な考えをつくりだし、表現しようとするとともに、水溶液の性質や働きについて理解したことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。	・水溶液には、酸性、アルカリ性、及び中性のものがあることを理解している。 ・水溶液の違いを多面的に調べることができる。 ・水溶液には、気体が溶けているものがあることを理解している。 ・水溶液の性質や働きを多面的に調べることができる。 ・水溶液には、金属を変化させるものがあることを理解している。 ・水溶液の性質や働きを多面的に調べることができる。	水溶液の性質を多面的に調べる活動を通して、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。 水溶液の性質や働きを多面的に調べる活動を通して、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。	・問題解決の見通しをもって、水溶液の性質や働きについて追究し、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決しようとしている。 ・水溶液の性質や働きについて理解したことを日常生活などに生かそうとしている。
月と太陽	6	・月と太陽の位置に着目して、これらの位置関係を多面的に見ながら、月の形の見え方について追究する中で、より妥当な考えをつくりだし、表現することを通して、月の形の見え方と月と太陽の位置関係を理解すること。 ・問題解決の見通しをもって、月の形の見え方について追究し、より妥当な考えをつくりだし、表現しようとするとともに、月の形の見え方と月と太陽の位置関係について理解したことを日常生活に生かそうとする態度を養う。	・月の輝いている側に太陽があることを理解している。 ・月の形の見え方は、太陽と月との位置関係によって変わること理解している。 ・月の形の見え方と太陽の位置関係を実際に観察したり、モデルや図で表したりして多面的に調べることができる。	月の形の見え方を多面的に調べる活動を通して、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。	・問題解決の見通しをもって、月の形の見え方を追究し、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決しようとしている。 ・月の形の見え方と月と太陽の位置関係について理解したことを日常生活に生かそうとしている。

大地のつくりと変化	16	・土地やその中に含まれている物に着目して、土地のつくりやでき方を多面的に見ながら、土地のつくりと変化を追究する中で、より妥当な考えをつくりだし、表現することを通して、土地のつくりと変化を理解すること。 ・問題解決の見通しをもって、土地のつくりと変化を追究し、より妥当な考えをつくりだし、表現しようとするとともに、土地のつくりと変化について理解したことを日常生活に生かそうとする態度を養う。	・土地は、礫、砂、泥、火山灰などからできており、層をつくって広がっているものがあることを理解している。 ・層には化石が含まれているものがあることを理解している。 ・土地のつくりを多面的に調べることができる。 ・地層は、流れる水の働きや火山の噴火によってできることを理解している。 ・粒の大きさや形や色などの特徴から、土地のでき方を多面的に調べることができる。 ・土地は、火山の噴火や地震によって変化することを理解している。 ・火山活動や地震による土地の変化を多面的に調べることができる。	土地のつくりを多面的に調べる活動を通して、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。 地層ができた要因を多面的に調べる活動を通して、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。 土地のつくりやでき方を多面的に調べる活動を通して、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。	・問題解決の見通しをもって、土地のつくりと変化を追究し、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決しようとしている。 ・土地のつくりと変化について理解したことを日常生活などに生かそうとしている。 ・問題解決の見通しをもって、土地のつくりと変化を追究し、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決しようとしている。 ・土地のつくりと変化について理解したことを日常生活などに生かそうとしている。
てこのはたらき	10	・加える力の位置や大きさに着目して、これらの条件とてこの働きとの関係を多面的に見ながら、てこの規則性を追究する中で、より妥当な考えをつくりだし、表現することを通して、てこの規則性を理解すること。 ・問題解決の見通しをもって、てこの規則性について追究し、より妥当な考えをつくりだし、表現しようとするとともに、てこの規則性について理解したことを日常生活に生かそうとする態度を養う。	・力を加える位置や力の大きさを変えると、てこを傾ける働きが変わり、てこがつり合うときにはそれらの間に規則性があることを理解している。 ・てこのつり合いの条件を制御しながら調べることができる。 ・身の回りには、てこの規則性を利用した道具があることを理解している。 ・てこの規則性と道具の仕組みや働きとの関係を多面的に調べることができる。	力を加える位置や力の大きさとてこを傾ける働きとの関係を条件を制御しながら調べる活動を通して、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。 てこの規則性を多面的に調べる活動を通して、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。	・問題解決の見通しをもって、てこの規則性について追究し、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決しようとしている。 ・てこの規則性について理解したことを日常生活などに生かそうとしている。

発電と電気の利用	13	・電気の量や働きに着目して、それらを多面的に見ながら、電気の性質や働きを追究する中で、より妥当な考えをつくりだし、表現することを通して、電気の性質や働きを理解すること。 ・問題解決の見通しをもって、電気の性質や働きについて追究し、より妥当な考えをつくりだすとともに、電気の性質や働きについて理解したことを日常生活に生かそうとする態度を養う。	・電気は、つくりだしたり蓄えたりすることができることを理解している。 ・手回し発電機や光電池などを使って発電したり、蓄電器に電気を蓄えたりできることを多面的に調べることができる。 ・電気は、光、音、熱、運動などに変換することができることを理解している。 ・豆電球や発光ダイオードを点灯させたり、電子オルゴールを鳴らしたり、電熱線を発熱させたり、モーターを回転させたりしたときの電気の働きを多面的に調べることができる。 ・身の回りには、電気の性質や働きを利用した道具があることを理解している。 ・身の回りにある、電気を利用している道具の働きに着目して、電気の利用の仕方を多面的に調べることができる。	発電や蓄電を多面的に調べる活動を通して、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。 電気の変換を多面的に調べる活動を通して、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。 発電や蓄電、電気の変換を多面的に調べる活動を通して、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。	・問題解決の見通しをもって、電気の性質や働きについて追究し、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決しようとしている。 ・電気の性質や働きについて理解したことを日常生活などに生かそうとしている。
自然とともに生きる	5	・生物と水、空気及び食べ物との関わりに着目して、それらを多面的に見ながら、生物と環境を追究する中で、より妥当な考えをつくりだし、表現することを通して、生物と持続可能な環境との関わりを理解すること。 ・問題解決の見通しをもって、生物と環境について追究し、より妥当な考えをつくりだし、表現しようとするとともに、生物と持続可能な環境について理解したことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。	・人は、環境と関わり、工夫して生活していることを理解している。 ・人の生活について、持続可能な環境との関わり方を多面的に調べることができる。	人と環境との関わり方を多面的に調べる活動を通して、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。	・問題解決の見通しをもって、生物と環境を追究し、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決しようとしている。 ・生物と環境について理解したことを日常生活などに生かそうとしている。